



持続可能な開発目標の実現に向けた IFCの貢献

2018年3月



表紙写真(左から右へ)：

アゼルバイジャンの農村部。国家水道・衛生プログラムによって、より良い水道・衛生サービスを届けています。©Allison Kwesell / 世界銀行

インド・バンガロールの賑やかな市場。商人が野菜を販売し、買物客の間を車が通り抜けています。©PI / Shutterstock

アフガニスタン・カブール北西部の変電所。担当者が任務に当たっています。©Graham Crouch / 世界銀行

持続可能な開発目標の実現に向けた IFCの貢献

アディスアベバ行動目標 (The Addis Ababa Action Agenda) ¹ は、持続可能な開発目標 (SDGs) を実現する上で、民間部門が幅広い役割を果たすことが重要であると明記しています。国際金融公社 (IFC) は、60年にわたる知見と世界的なネットワークを有し、最も必要とされている民間資金を呼び込むために、支援しております。IFCの新たな中期経営戦略 (IFC3.0) は、新たな市場の創出と民間資金の動員に焦点を当て、未だ開発の格差が大きく残り、民間資金の流入が不十分な国々に対する支援の拡大を目指しています。

世界銀行グループ (WBG) の一員として、IFCは、2030年までに極度の貧困を撲滅し、繁栄の共有を促進するという、SDGsに沿った2つの目標を掲げています。IFCは、投融資とアドバイザリー・サービスを通じて、持続可能で包摂的な経済成長の基礎となる民間部門にソリューションを提供しています。その目的は、プロジェクト・レベルでの成果の達成と市場そのものを切り拓くというIFCの活動を通じて、大きな開発課題への取り組みを支援することにあります。IFCは、新たな開発効果測定フレームワーク (AIMM) を導入し、より困難な地域や分野を対象とした案件を行うことに重きを置き、プロジェクトとそれを取り巻く市場における開発効果の測定とモニタリングを強化するというメッセージを明確にしました。

本資料では、IFCの戦略とSDGsとの関係について、概要を解説するとともに、IFCの業務がSDGsの実現にどのように貢献しているかを説明します。

IFCとSDGsの関係

IFCの業務は、SDGsの実現に貢献しています。SDG 1「貧困をなくそう」とSDG 10「人や国の不平等をなくそう」は、IFCの2つの目標そのものです。戦略的分野としては、SDG 2、3、4、6、7、9に関連するインフラ、農業、金融包摂 (ファイナンシャル・インクルージョン)、保健医療および教育分野に対し、IFCは投融資やアドバイザリー業務を推進しています。

IFCは、複数のセクターや地域を超えて、雇用の創出と経済成長、性差のない平等、環境と社会の持続可能性、気候変動への適応と軽減の推進に取り組んでおり、これはSDG 5、8、12、13に沿うものです。さらにIFCは、SDG 17にもある、新たな民間資金を呼び込み民間投資家との関係強化に力を入れてきています。

図1は、IFCと13のSDGsの関係を示しています。

¹ 2015年の第3回開発資金会議で採択されたアディスアベバ行動目標



図1 IFCの戦略とSDGsとの関連性

上の図は完全なマッピングではなく、SDGsの実現を支援するためのIFCによるアプローチの概要を示したものです。複数セクターにまたがるインパクトは、戦略セクターへの投融資およびアドバイザー業務を通じてもたらされるため、マッピングは一部重複しています。

SDGsに向けたIFCの道筋

IFCは、市場を拓き民間資金を呼び込むことで、難しい開発課題に取り組むことを使命としています。IFC3.0を実施するにあたり、IFCは開発効果測定フレームワーク(AIMM)を導入しました。これにより、図2に示すように、IFCの使命、組織内の目標とSDGsを繋ぐ道筋が明確になりました。

図2に示すように、IFCはプロジェクトの成果と市場の創出という2つのルートでSDGsの実現に貢献します。



図2 IFCの照準をSDGsに合わせる

IFCは、プロジェクトの成果を測定し、報告しています。これには、ステークホルダー（顧客、サプライヤー、政府およびコミュニティなど）に対する直接的なインパクトや、経済に対する間接的な影響（付加価値や雇用など）、環境と社会に対するインパクトも含まれます。

IFCはまた、プロジェクトの評価において、市場を創出する、即ち新しい市場を切り拓く、又は市場機能の包括的な改善に貢献し、そして持続可能な開発インパクトに貢献するかという点を考慮しています。その目的は、持続可能で包摂的、強靱でありかつ統合された競争力のある市場を創造することです。

世界銀行グループの「開発のための資金の最大化」アプローチにおいて、IFCは、IFC3.0を通じて重要な役割を担っています。野心的なSDGsを実現するためには、公的セクターの限られた資金を大切にしつつ、民間部門の果たす役割を並び、民間資金を活用する必要があります。IFCは、世界銀行や多数国間投資保証機関(MIGA)の協力の下、開発における民間部門のソリューションを提供し、SDGsの実現に貢献する民間投資が可能となる市場の創出に注力しています。

市場を創造するにあたり、IFCは幾つかの方法を実施しています。例えば、革新的なビジネスモデルの反復可能な成功例を示す。効率性の向上、コスト削減、値下げ、市場の新規参入を通じて競争力の向上を図る。事業規制の枠組みを改善し、活気ある民間部門の持続可能な開発と成長をもたらす。新たな市場機会を切り拓く能力やスキルを育成するなど。そうすることより、IFCは自らの資金が実現する以上のインパクトを創り出そうとしています。

SDGs に対する IFC の貢献の報告

IFC は、開発効果測定フレームワークの導入により、組織の目標を SDGs に合わせられるようになりまし
た。また、組織の戦略的優先事項を実施する上で、説明責任の観点から、実施方法、結果、教訓を文書
に残します。測定結果は世界銀行グループのコーポレート・スコアカードに記載され、投融資およびア
ドバイザリー業務の成果報告に用いられます。

IFC はプロジェクト用の指標を用いてプロジェクトの成果をモニタリングし、以下の表に示すように、
様々な SDGs に沿った、ポートフォリオ・レベルでの報告に用いています。AIMM の導入により今後、
市場創出効果のモニタリングと報告が可能になります。現在、IFC の結果測定の枠組みは概ねセクター・
レベルでの成果指標で構成されるにとどまっており、これには、複数の開発金融機関が SDGs 関連を
含む開発の成果を測定し、モニタリングし、報告するために用いている民間セクター事業の統一指標
(HIPSO)² も含まれます。

IFC は、プロジェクトの成果と市場創出効果のほか、SDGs の実現に貢献する民間資金の動員や、環境と
社会の持続可能性に関するパフォーマンス基準の採用状況を追跡し、報告しています。

- IFC は、自己資金からの投融資額と他の投資家から動員した資金額を報告しています。IFC は、他の多
国間開発銀行 (MDBs) と共に、民間部門から動員した資金額を報告しています。
- IFC は、SDGs に関連した 30 以上の目標に照準を合わせた独自のパフォーマンス基準とコーポレート・
ガバナンス (CG) 手法を用いて、投融資対象と SDGs との整合性を測定し、モニタリングします。これ
らのパフォーマンス基準と CG 手法は、顧客が企業、投資家、環境、コミュニティのすべてにとって望
ましいソリューションを考案するのに役立っています。

表 1 に示すように、IFC は 2016 年暦年に、業務を通じて 6,200 万件のマイクロファイナンスおよび中
小企業顧客のために金融サービスへのアクセスを拡大し、5 億 2,810 万人のためにインフラ・サービス
を改善し、800 万個のコンテナを扱えるよう港湾の処理能力を拡張し、保険医療サービスを 3,400 万人
に提供し、160 万の女子学生を含む 490 万人の学生を支援し、74 万 7,375 人の女性を含む 240 万人の
就職を支援し、300 万軒の農家を対象に農業慣行の改善を支援しました。

さらに、IFC の顧客は、マイクロファイナンスと中小企業を対象に、4,118 億ドルの融資を提供しました。
IFC の顧客による政府歳入または歳出節減への貢献額は、合計 146 億ドルに達しました。

さらに世界銀行グループは、「世界銀行グループと持続可能な開発目標：当グループの貢献 (The
World Bank Group and the Sustainable Development Goals: Our Contribution)」³ を毎年発行し、各
SDG の実現に向けたグループ機関全体の貢献に特化した報告を行っています。

² HIPSO は、開発成果の推計、収集、報告を改良および統一し、結果管理を改善することを目的として、統一化グループ (Harmonization Groups)
によって作成されました。

³ 各 SDG への貢献に関する WBG の報告は、グループ機関が作成したポートフォリオ・データに基づいています。IFC は、この支援データを毎年報
告しています (2016b 年暦年の支援データを表 1 に記載)。

表1 ポートフォリオ・レベルで測定したIFCによるSDGsへの貢献

SDGs	IFCによる測定	IFCによる結果— 2016年暦年のデータ
2つの目標		
	マイクロファイナンスおよび中小企業への融資件数 ⁴	6,200万件
	インフラ・サービスに関する支援を受けた人数 ⁵	5億2,810万人
	支援を受けた患者数	3,400万人
	支援を受けた学生数／支援を受けた女子学生数	490万人／ 160万人
	支援を受けた農家数	300万軒
	マイクロファイナンスおよび中小企業への融資金額(ドル)	4,118億
	マイクロファイナンスおよび中小企業への融資件数	400万件*
	インフラ・サービスに関する支援を受けた人数	1億5,110万人*
	支援を受けた患者数	201,616人*
	支援を受けた学生数／支援を受けた女子学生数	96,655人* / 47,693人*
	支援を受けた農家数	801,808軒*
	マイクロファイナンスおよび中小企業への融資金額(ドル)	161億9,000万*
複数セクターへのインパクト		
	マイクロファイナンスおよび中小企業への融資件数	6,200万件
	マイクロファイナンスおよび中小企業への融資金額(ドル)	4,118億
	就職支援を受けた人の数／就職支援を受けた女性数	240万人／ 747,375人
	上級経営幹部職の女性数	— **
	女性マイクロファイナンスおよび女性中小企業への融資件数	—
	年間CO ₂ 排出削減量(トン)	—
	国家歳入または歳出節減への貢献(ドル)	146億
	米ドル建て融資へのアクセス(エネルギー効率)	—
セクターへのインパクト		
	支援を受けた農家数	300万軒
	支援を受けた患者数	3,400万人
	支援を受けた学生数／支援を受けた女子学生数	490万人／ 160万人
	インフラ・サービスに関する支援を受けた人数—水配給	1,430万人
	節水または水処理	—
	インフラ・サービスに関する支援を受けた人数—生活インフラ ⁶	1億420万人
	処理または発送されたコンテナ	800万個
	インフラ・サービスに関する支援を受けた人数—運輸	440万人
	インフラ・サービスに関する支援を受けた人数—通信	3億4,530万人

* 脆弱・紛争状況にある国(FCS)を含む国際開発協会(IDA)の支援国におけるポートフォリオの支援データを使用し、不平等の軽減を測定。

** 空欄「—」: 利用可能な支援データはありません。

⁴ ポートフォリオの支援データは、IFC顧客の零細・中小企業(MSME)向け金融機関／プロジェクトによる、2016年暦年末現在の零細・中小企業向け融資残高を表しています。2016年暦年のデータには、データを推定した9件の顧客を含め、304件のMSME顧客のデータが含まれています。

⁵ 発電、配電、水の配給、ガス供給、運輸、通信が含まれます。

⁶ 発電および配電が含まれます。

IFC
2121 Pennsylvania Avenue, N.W.
Washington, D.C. 20433 U.S.A.

ifc.org

Contacts

ALAN LUKOMA | alukoma@ifc.org

CHRISTIAN ROSENHOLM | crosenholtm@ifc.org



Creating Markets, Creating Opportunities